

「日々の理科」(第2015号) 2020,-1,15

「長谷のストーン・ショップ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この日は、遠足の下見の途中で、このあともまだ歩く必要があったので、大きな化石は変えなかった・・・というよりも手持ちの現金もなかった。しかし、手ぶらでは帰りたくなかったので、教材になりそうな鉱物と化石を何種類か買い求めた。



これは「テレビ石」という面白い鉱物。細いガラスファイバーのような繊維状の結晶が、ホタテの貝柱のように縦に束ねられた構造になっていて、下に置いたものがテレビの画面のように上面に投影される。



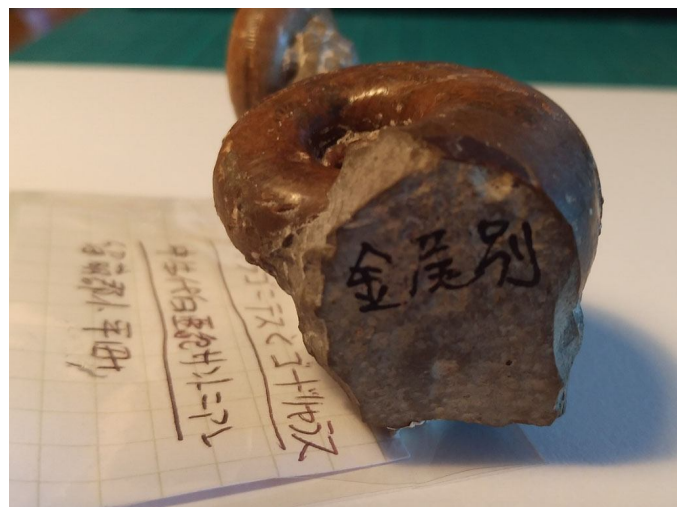
マイ・バスケットのカードだけでなく、ローソンのポンタカードまで映る。たぶん、スイカやJALのマイレージカードも映るだろう。実はこの石は「人工テレビ石」である。しかし、天然のものよりも不純物がなく、きれいに映るのが特徴だ。



水晶も「爆買い」してしまった。一目見てブラジル産の安物なのだが、1個50円と破格である。50円にしては結晶も美しく、透明度もますますだ。これなら授業で使えそうである。



この日一番の「掘り出し物」はこの化石(1000円)だ。北海道の代表的なアンモナイトの「テトラゴニテス」と「ゴドリセラス」が一つの母岩についている。



小平町(おびらちょう)金尾別産とはっきりわかるところに、確かな価値がある標本ですばらしい。